

医科学知は 誰のものか？

— 医科学による管理と
〈生の自己決定〉をめぐる対話 —

2026年

3月14日 **土**参加
無料

14:30 ▶▶ 18:00

オンライン開催

一般の方も参加できます

申込はこちらから▶

データでご覧の方は、二次元コードを
クリックまたはタップでアクセスできます。

19世紀以降、医科学の知識は、国家が国民の健康を管理する「バイオポリティクス」の道具として機能する一方、市民が自らの生を営むための「コモン・ナレッジ」としても捉えられてきました。誰が、何のためにこの知を生産・利用し、共有すべきなのか。この問いに普遍的な答えはありませんが、現代はまさに、その知の社会的循環のあり方をめぐる根源的な問いが突きつけられている時代と言えるでしょう。本シンポジウムでは、医科学知の所有と利用をめぐる現状から、そのあり方を多角的に問い直します。アメリカの「バイオシチズンシップ (biocitizenship)」、フランスの「医療民主主義」、そして日本の学校教育における「医療的ケア」。異なる背景を持つ3つの事例をもとに、医科学知をめぐる統治と抵抗、権利と責任、専門性と公共性といった錯綜する力学を解き明かしながら、管理と自己決定の狭間で揺れる現代の「生」のあり方と、未来への展望をともに議論します。

プログラム

- 14:30 ● **開会の挨拶** 中村 征樹 (日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構教授)
- 司会 三時 眞貴子 (日本学術会議連携会員／広島大学大学院人間社会科学研究科准教授)
- 14:40 ● 『**医科学知の所有と利用をめぐるバイオシチズンシップ**』
堀内 進之介 (立教大学文学部特任准教授)
- 15:10 ● 『**フランスにおける医療に関する参加型民主主義の課題**』
建石 真公子 (日本学術会議連携会員／法政大学名誉教授)
- 15:40 ● 『**日本における医療的ケア児の教育支援**』
河合 隆平 (東京都立大学人文社会学部准教授)
- 16:30 ● **コメント** 加藤 和人 (日本学術会議第二部会員／大阪大学大学院医学系研究科教授)
- コメント** 熊谷 晋一郎 (日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター教授)
- コメント** 高橋 博子 (日本学術会議連携会員／奈良大学文学部教授)
- 総合討論**
- 18:00 ● **閉会の挨拶** 河野 銀子 (日本学術会議連携会員／九州大学男女共同参画推進室教授)

主催：日本学術会議史学委員会・哲学委員会合同科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会

共催：科学研究費学術変革領域 (A)「尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」

(領域代表 加藤泰史) B01班「各国憲法や生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」(班代表 建石真公子)